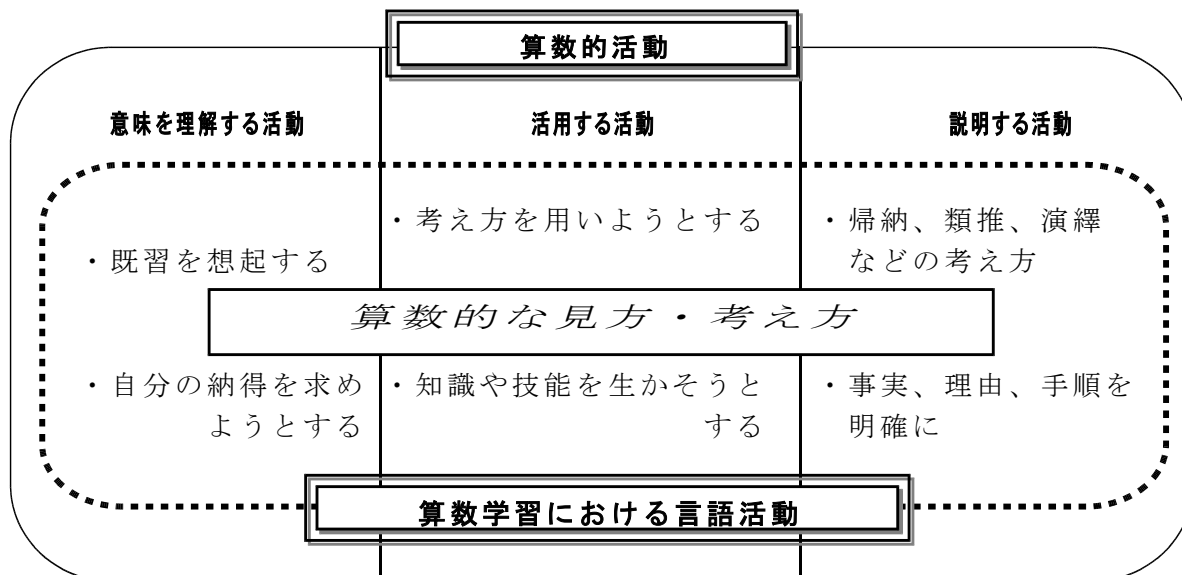


5. 「見方・考え方」と「言語活動」

算数的な見方・考え方が広がる問題解決学習



問題解決学習を支える言語活動

中教審報告には、①筋道立てて説明し、自ら納得したり、他者を説得したりすること ②帰納、演繹などの考え方を育むと同時に、それらの考え方をよりよく用いるための言語力を身につけること ③事実の説明、理由や手順の説明の仕方を身につけること ④根拠をもとに、正しい、正しくないということを明確に説明できること、が算数科への期待として挙げられています。

言語活動を充実させた算数の授業を通して、「思考力・判断力・表現力」を育成していき、算数的な見方・考え方を生み、広げていくこと重視します。「問題解決学習」を大切にしながら重視します。考え、表現する上で算数的な見方や考え方は、何より子供の言葉となって現れます。一人ひとりの言葉があふれ、つながり、重なり合うことで、算数学習を通して培われるべき「算数的な見方・考え方」になっていくのです。言語活動は前述の算数的活動の中核においてみていくべきものと考えます。逆に、言語活動を充実させることは、子供の主体的な算数的活動を支えるものともいえます。

算数らしい言語

「見方や考え方そのもの」が、子供の言葉となります。また、既習を生かして、自分はどう考えようとしている、こんなことに困っている、等と学び進めている様子も子供の言葉となります。また子供たちが、お互いに見方を表現しあい考え方を交流する上で、交わされるものも言葉です。

○だって～

… 理由や根拠を明らかにしようとする

○つまり～

… 導かれる法則を見ようとしている

○するとこんな時は～

… 発展的に見よう、一般化しようとしている

○同じ（違う）

… 多彩な表現方法の中の本質を見ようとしている

算数学習、算数の問題解決学習を充実させようとするほど、また、より豊かな算数的活動を保障しようとするほど、子供たちの言葉に潜む算数らしさが見えてきます。